

## 編集後記

編集委員をはじめ多くの方々のご協力で、学術情報処理研究の論文審査を終了することができました。短期間で査読の作業を行ってくださった編集委員の方々に御礼申し上げます。また、著者との事務連絡、印刷・出版の業務を担当して下さった、渡辺義明先生をはじめ佐賀大学の皆様に感謝申し上げます。

今回の査読論文では、情報処理関連のセンターが日常の業務で最も力を入れている「セキュリティ管理関係」の内容が多くありました。外部からの不正アクセス、メールの添付ファイルに潜ませたウィルスの進入等を、監視し、学内へ入らないようにする役目をセンターが行い、その対策に苦慮している現状の表れであると同時に、他のセンターでも参考になる内容であると考えています。

また、何処でもネットワークが使える環境の構築、教育情報端末を情報処理システムとして活用する試み、離島などにおけるブロードバンドネットワークの整備の提案など、利用者に優しいネットワーク構築・管理が求められているセンターやキャンパスが分散している大学が抱えている問題解決のヒントとなる研究がありました。

一方では、国立大学が独立法人化され、各大学における総合情報処理センターの改組が進み、組織の充実と拡充がなされています。そんな中で、学術及び総合情報処理センター研究会・連絡会議の意義と名称が議論されています。センターが改組されても、研究会と連絡会議は必要であるという認識では異論はなさそうですが、学術及び総合情報処理センター研究会・連絡会議と連動した学術情報処理研究のあり方とその必要性が問われることでしょう。その必要性については、学術情報処理研究 No.8 2004 の編集後記に昨年度の小澤哲編集委員会主査が述べておられます。

各情報関連のセンターは大学の基盤となるコンピュータ・ネットワークやコンピュータシステムを扱う中で起こっています、様々な問題の解決法、改善・改良の提案、将来に向けての新しいシステムの提案といったものを扱っています。そのような情報は各センターにとっても有益なものであり、学術情報処理研究の存在意義がそこにあると思います。今後とも学術情報処理研究が続いてゆくことを願うとともに、皆で盛り上げてゆく努力をしようではありませんか。

「学術情報処理研究」  
編集委員会主査 山岸 正明

---

### 「学術情報処理研究」編集委員会

|    |       |        |       |        |
|----|-------|--------|-------|--------|
| 主査 | 山岸 正明 | (鳥取大学) | 中里 洋一 | (群馬大学) |
|    | 八巻 直一 | (静岡大学) | 渡辺 義明 | (佐賀大学) |
|    | 石田 雅  | (鳥取大学) | 吉浦 紀晃 | (群馬大学) |
|    | 長谷川孝博 | (静岡大学) | 只木 進一 | (佐賀大学) |